

令和元年（2019年）度つくば市民意識調査

集計結果の概要

報告書の見方（凡例）

- (1) 集計結果の%は、小数点第2位を四捨五入し、第1位までの表記としている。したがって、合計が100%に満たないまたは100%を超える場合がある。
- (2) 回答者数は、回答者全員が答えるべき設問については有効回答数となり、条件付き設問（例：「問1で1に○をした方のみお聞きします」という設問）については、その設問に答えるべき該当者の数となっている。
- (3) 複数回答の設問は、集計結果の合計が100%を超えることがある。
- (4) 無回答には、無効回答（選んだ選択肢の判別が困難なもの、択一回答の設問で複数の選択肢を選んでいるものなど）が含まれる。
- (5) nは、各設問における回答者数である。

集計結果の概要

1 あなたご自身について

各属性の上位2位までは次の通り

属性	1位	2位
性別	「女性」55.8%	「男性」43.6%
年齢	「40歳代」21.5%	「50歳代」16.7%
世帯構成	「親子」47.5%	「夫婦のみ」25.7%
世帯に含む人	「65～74歳の方」28.3%	「小中学生」20.7%
職業	「会社員・公務員」37.9%	「専業主婦(主夫)」16.7%
住まい状況	「一戸建(持ち家)」67.3%	「集合住宅(賃貸)」16.5%
居住地区	「研究学園地区」29.7%	「TX沿線地区」18.2%

2 現在の住環境について

(1) 居住歴・市外居住経験

つくば市での居住歴は「30年以上」が37.9%で最も多く、次いで「10年以上20年未満」が20.1%となっている。地区別にみると、筑波地区、大穂地区、豊里地区、谷田部地区、桜地区、荃崎地区では、居住歴が20年以上の割合が70%近くを占めている。一方、研究学園地区では居住歴が20年未満である割合が60%、TX沿線地区では80%を超えている。

市外居住経験については、「ある」が84.5%、「ない」が15.1%となっている。地区別にみると、研究学園地区、TX沿線地区では、「ある」の割合が90%を超えている。

(2) 定住意向・住み心地

つくば市の定住意向は、「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた割合が8割を超えている。

つくば市の住み心地については、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が8割を超えている。(図1)いずれの地区別、年齢別、住まい別でも「住みやすい/どちらかといえば住みやすい」が65%を超えている。

住みやすいと感じる主な理由は、「豊かな自然」が57.1%で最も多く、「日常生活が便利」が51.0%となっている。一方、住みにくいと感じる主な理由は、「交通の便が悪い」が77.0%で最も多く、「日常生活が不便」が57.8%となっている。

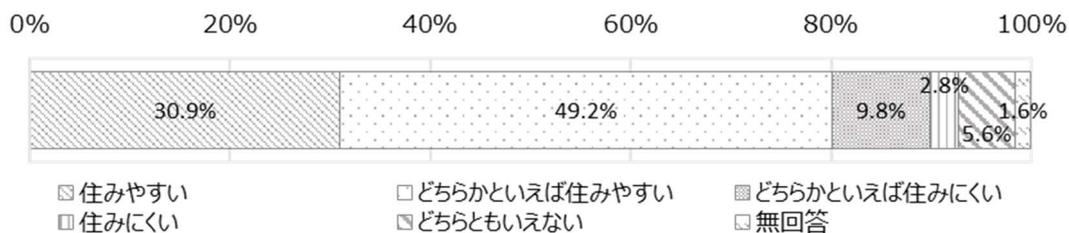


図1 つくば市の住み心地

(3) 景観

つくば市の景観については、「優れている」「どちらかといえば優れている」の合わせた割合が7割を超えている。(図2)

優れていると感じる景観としては、「筑波山・宝篋山」が54.6%で最も多く、「電線・電柱が地中化されている風景」が29.6%と続いている。

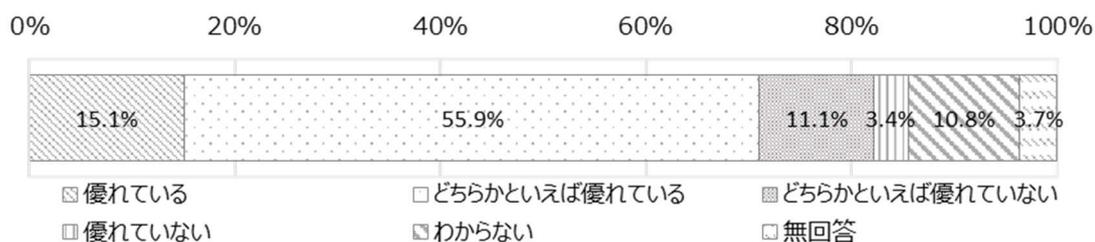


図2 つくば市の景観

(4) 市への愛着

つくば市への愛着については、「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせた割合が8割を超えている。定住意向別をみると、「住み続けたい」では「愛着がある」の割合が54.0%で最も多くなっている。一方、「住み続けたくない」では「愛着がない」の割合が41.4%で最も高くなっている。

3 つくば市の現状やまちづくりへの取組について

(1) 現在の満足度

「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合をみると、「病院・診療所などの医療機関」は77.4%で最も多く、次いで「生活環境(騒音・悪臭・ごみなど)対策」が69.6%となっている。一方、「不満」と「どちらかといえば不満」を合わせた割合をみると、「つくば駅周辺のにぎわい」は57.5%と最も多く、次いで「公共交通」が52.8%となっている。

なお、満足度を点数化すると、満足度が高い項目として「病院・診療所などの医療機関」「科学技術の振興」「国際化の推進」があげられる。一方、満足度の低い項目として、「つくば駅周辺のにぎわい」「公共交通」「観光の振興」があげられる。

(2) やりたいことができるまち

つくば市がやりたいことができるまちであるかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が5割半ばである。

地区別にみると、筑波地区、荃崎地区以外では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合わせた割合が50%を超えている。一方、荃崎地区では「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合が28.7%で最も多く、次いで筑波地区が26.7%となっている。

(3) 紹介したいところ・自慢したいところ

紹介したいつくば市の魅力については、「科学(研究学園都市、研究機関の見学施設など)」が40.6%で最も多く、「自然(筑波山、宝篋山、牛久沼など)」が34.7%、「つくばエクスプレス」が28.5%と続いている。

(4) 市政

市政に市民が参加できる環境が整っているかについては、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が4割である。(図3)

また、市政に対する意見を市に伝えたことがあるかについては、「市に伝えたい意見がない」が27.2%で最も多く、「市が実施したアンケートの回答」が22.1%、「区会・自治会を経由した意見表明」が11.8%、「窓口での会話・筆談等」が6.8%で続いている。

さらに、市政に市民の声が生かされているかについては、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が4割近くとなっている。



図3 市政に市民が参加できる環境

4 少子高齢化への取組について

(1) 子育て環境

安心して子どもを生み育てられる環境が整っているかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が5割を超えている。

子育ての環境として充実していると思うものについては、「子育て世帯への経済的支援」が33.7%と最も多く、次いで「保育施設」が22.1%、「放課後児童クラブ」が20.7%となっていた。不足していると思うものについては、「産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000」が29.6%と最も多く、次いで「一時預かり・夜間・休日・病児の育児」が26.8%、「保育施設」が25.1%となっている。

集計結果の概要

(2) 高齢者の生活環境

高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が3割を超えている。

高齢者の生活環境について充実していると思うものについては、「クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119」が28.4%で最も多く、次いで「健康づくりや介護予防事業」が22.3%となっていた。不足していると思うものについては、「日常生活支援(移動・送迎、買い物等)」が37.5%で最も多く、次いで「高齢者の生きがいづくり支援(通いの場づくり等)」が21.9%となっていた。

5 あなたの普段の生活について

(1) 防災対策・防犯活動

防災対策として実施しているものは、「防災用品や食料・水の備蓄」が60.6%で最も多く、「タンスやテレビ、電子レンジの転倒(落下)防止措置」が37.7%と続いている。

防犯活動への参加については、「参加していない」が81.6%で最も多くなっている。参加しない理由として、「組織があるかわからない」が36.7%で最も多く、次いで「時間がない」が21.0%、「組織がない」が9.3%で続いている。過年度調査と比較すると、「組織があるかわからない」が増加し、「時間がない」が減少している。

(2) ワークライフバランス

生活の中での優先度については、「仕事と家庭生活をともに優先している」が28.4%で最も多く、「家庭生活を優先している」が26.5%、「仕事を優先している」が13.9%で続いている。(図4)

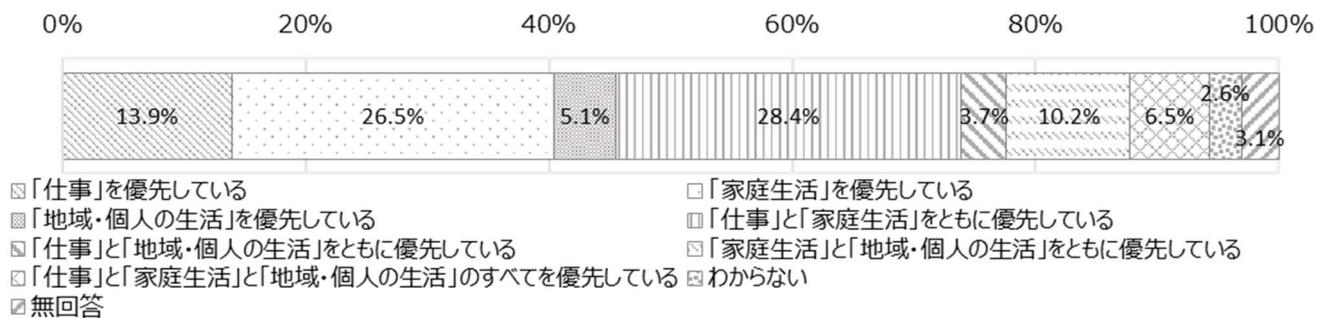


図4 生活の中での優先度

(3) 運動頻度

この一年間の運動やスポーツの頻度については、「週に1日以上」の割合が5割を超えている。年齢別にみると、「週に3日以上」の割合が最も多いのは70~74歳の40.8%、次いで75歳以上の36.1%となっている。

6 交通環境について

(1) 日常利用する交通手段

日常利用する交通手段は、「自家用車」が85.8%で最も多く、「鉄道」が28.9%、「自転車」が19.9%となっている。

(2) 歩行者と自転車と自動車の共生

歩行者と自転車と自動車と共に安全で快適に通行できているかについては、「どちらかといえばできていない」と「できていない」を合わせた割合が6割近くになっている。

(3) 望ましい交通環境

つくば市の望ましい交通環境については、「公共交通が便利で、自動車がなくても生活できるまち」が58.6%で最も多く、「自動車がスムーズに走行できるまち」が13.9%、「自転車を安心・便利に利用できるまち」が12.1%となっている。(図5)

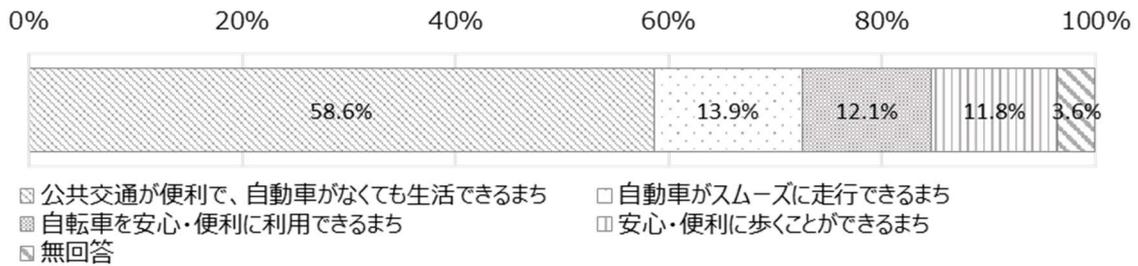


図5 望ましい交通環境

7 つくば駅周辺地区の活性化について

(1) つくばセンター地区(つくば駅周辺)への来訪頻度

つくばセンター地区(つくば駅周辺)を訪れる頻度については、「年数回程度」が30.1%で最も多く、「月1、2回程度」が28.4%、「まったく訪れない」が11.4%、「週1回程度」が10.9%が続いている。つくばセンターを訪れる主な目的は「日常の用事」が37.4%で最も多く、次いで「移動・乗り換え」が24.2%となっている。

(2) つくばセンター地区の活性化に必要な取組

にぎわいのあるつくばセンター地区にするために必要な取組については、「商業施設の誘致」が39.8%で最も多く、「公共交通でのアクセスの向上」が8.2%、「駐車場の拡充」が7.0%、「オープンカフェや朝市の設置」が6.7%が続いている。過年度調査と比べると、「商業施設の誘致」が増加している。

8 科学のまちについて

(1) 「科学のまち」による恩恵

つくばが「科学のまち」であることの恩恵を感じるかについては、「あまりない」と「ない」を合わせた割合が5割近くになっている。(図6)



図6 「科学のまち」による恩恵

(2) 先端的な製品・サービス

先端的な製品・サービスが暮らしの中に活かされていると思うかについては、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が6割半ばである。

(3) 将来期待する分野

新しい技術や研究成果により、将来的に便利になっていくことを期待する分野については、「交通・移動に関すること(自動運転、新型モビリティなど)」が47.5%で最も多く、次いで「健康状態の維持に関すること(病気の予防、新たな治療技術など)」が35.7%、「医療機関におけるサービス・手続きに関すること」が35.4%となっている。年齢別にみると、20歳代から50歳代、65~69歳では「交通・移動に関すること」、60~64歳代、70~74歳代では「介護の負担軽減に関すること」が最も多くなっている。

9 国際都市つくばについて

(1) 国際都市

つくば市が国際都市として取り組むべきことについては、「学校での国際教育」が47.4%で最も多く、「外国人と交流する機会の提供」が36.5%、「海外の芸術・文化・芸能公演」が29.2%、「外国語の案内表示」が25.6%が続いている。

集計結果の概要

10 SDGs (持続可能な開発目標)について

(1) SDGsの認知度

SDGsに関する認知度については、「まったく知らない(今回の調査で初めて知った)」が62.9%で最も多く、「名前だけは知っている」が16.2%、「少し知っている」が12.2%と続いている。年齢別にみると、「よく知っている」「少し知っている」の割合が10歳代で最も多くなっている。

(2) SDGsや持続可能に関することで関心が高いもの

SDGsや持続可能都市に関することで、関心が高いものは、「食品ロスの削減による資源の有効活用や環境負荷の低減」が44.7%で最も多く、次いで「子どもを中心とした貧困の解消」が41.7%、「地産地消の推進による地元農業の推進と環境負荷の低減」が33.4%となっている。

11 幸福度について

(1) 幸福度

幸福度については、10点中「8点」が21.8%で最も多く、次いで「7点」が19.4%、「5点」が14.7%、「6点」が11.7%と続いている。全体の幸福度の平均点は6.94点となっている。

幸福度を判断する際に特に重視することについては、「健康状況」が72.0%で最も多く、次いで「家族関係」が50.0%、「家計の状況」が39.4%となっている。

(2) 心配ごとや困っていること

心配事や困っていることについては、「老後のこと」が54.8%で最も多く、次いで「健康のこと」が40.7%、「お金のこと」が38.5%となっている。年齢別にみると、10歳代から30歳代では「お金のこと」、40歳代から74歳では「老後のこと」、75歳以上では「健康のこと」が最も多くなっている。